

# 滿洲建築協會雜誌

第 三 十 卷 第 一 號  
社 團 法 人 滿 洲 建 築 協 會



年 新 賀 謹

ホロータイル

フエースブリック

礦 滓 カ ッ ト

鋪 道 煉 瓦

スクラッチタイル

カ ッ ト タ イ ル

機 械 製 煉 瓦

普 通 煉 瓦

專賣特許 鐵 筋 煉 瓦

營 口 煉 瓦 製 造 所

大 連 工 場

大連市管内西山會三春柳一

電話九〇九七番

周 水 工 場

大連市管内周水屯周家屯

大 連 出 張 所

大 連 市 越 後 町 二 八

電話三九〇五番

馬 車 配 給 所

大 連 市 財 神 街 三

電話七七五八番

# 滿洲建築協會雜誌

第十三卷 第二號目次

## 卷頭圖版

### 新興蘇家屯の諸建築

## 本文

- 年頭雜感……………副會長 岡大路(1)
- 滿洲建築界の今後の新目標……………理事 村田治郎(8)
- 新興蘇家屯の諸建築……………正會員 利代子(13)
- 米國シカゴの一世紀進歩大博覽會……………D・M生(22)
- 安價な小住宅……………正會員 芦澤不二男譯(23)
- 建物に應用さるべき塗裝の新傾向……………理事 福岡庄一郎(28)
- 錦縣の大廣濟寺と佛塔……………理事 村田治郎(32)

## 會報

- 新入會員 會員移動 理事會 橫井氏會長就任 新京建築規則起案委員會  
 寄贈圖書 交換雜誌
- 編輯後記……………ISHIDA生



編輯後記

□ 謹んで御多幸なる新年を賀し上げ奉ります。

□ 例年新年號だけは年頭早々發行されて來ましたが、今回は舊臘小野木會長の物故と其の協會葬及び其の後始末やらで、とても其の準備が出来ませんでしたので、後編編輯、印刷共に之れを持越しのやむを得ざることになりました。

□ 借新年早々は兎角事務能率も工場能率も緩慢でありまして、次第に延引して編輯、校正の完了が本日になってしまひました。折角年賀廣告等御申込下さつた各位に對し聊か相濟まぬ感をもつ次第であります。此段不惡御了承を御願申上ます。

□ 今年編輯部の考へは次號迄に其の大體のプランを立て、發表したいと思ひますが、特輯は別として普通號は可成其號限り譚切の四、五頁乃至五、六頁を限度として比較的短かい記事を書くべく蒐載したい考へであります。従つて從來の様な纏つた論文や研究でなくとも感想漫録的の極くアツサリしたものを歡迎する事になりますから盛んに御寄稿を希望致します。

□ 本號の巻頭圖版は専ら滿鐵會社が蘇家屯に大機關庫を設置すると同時に此れに關連する種々な建物が出来ることになり、従つて新しい市街計畫により六、七兩年度に於て全く新らしき市街が出現しましたので此の際其等の諸建築を一纏めに御紹介申上ぐることに致しました。

□ 新蘇家屯グラフの寫眞は其の建築計畫の當事者であつた杉野謙三氏の配慮により夫々の請負者から寄贈されたもので圖面は同氏が特に淨寫して送付されたものと本社工事課保管の圖面を利用したものであります。

□ 今夏七月大連市に於て市主催の滿洲大博覽會が開設されるので本協會の主張として、同會場内に建築館なる一館を設置すべく交渉中ではありますが、會場全體の建築計畫に對しても何等かの方法で、それが這回の大博覽會の理想を最もよく表現するものであらしめ度いと願つてをります。本號所載のシカゴに於ける一世紀進歩大博覽會の會場施設中の主要なるもの三、四を擧げて、這回の滿博主催者及其の設計擔任者に對する參考に供することにしました。

□ 本會編輯部の柱石たる村田治郎さんが舊臘工學博士の學位を獲得されたことは既に周知の事と存じますが、其の論文は例の東洋建築に就ての研究であつたことも御想像の通りであります。年來同博士が本號の爲に種々眞摯なる論文を殆んど毎號寄稿されましたが、その大部分が即ち今回の學位論文の要素になつて居つたことを聞かしまして本會誌も俄かに權威づけられた様な氣が致します。種々な點が今回の本會としても亦本誌として同慶の至極に存じます。

□ 仍つて又改卷第一號に錦縣の大廣濟寺竝に佛塔に就ての研究の御發表を願つた次第ですが、かくして滿洲各地の古建築が歴史的に技術的に開明されて行くことは甚だ結構な事と云はねばなりません。

昭和八年一月二十日

I S H I D A 生

# 新興蘇家屯の諸建築

寫眞は各施工者よりの寄贈